



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記
事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP primary-care.or.jp/primarycare-kinki/

ニュースレター No.36 (2022.6)

特集1：近畿の話題（今回は、兵庫・滋賀からです）

兵庫県地域医療総合診療専門医プログラム・兵庫県立丹波医療センターの紹介

合田 建（神戸大学地域医療支援学部門／兵庫県立丹波医療センター／丹波市）

こんにちは、兵庫県立丹波医療センター（TMC）で勤務している合田です。今回は当院・当プログラムの紹介をします。基幹病院の丹波医療センターは2019年7月に県立柏原病院と柏原赤十字病院が合併し、新築開院しました。集中治療を含めた急性期診療や緩和ケア病棟での診療、同敷地内にある丹波市健康センターミルネでは、診療所外来や訪問診療、さらに市の事業として健康診断や保健予防活動まで幅広い活動を行い、同じ地域での様々なセッティングでの診療を通じて、一人の患者を連続的・包括的に診ることができます。

家庭医療・総合診療専門医プログラム登録数は2018-2022年度16人と近畿エリア最多です。今回は当院・当プログラムで行っている教育を紹介します。

当院は「内科はひとつ」をモットーに診療し、様々なバックグラウンドを持つ専門医・指導医の強力なバックアップの下で、幅広く、深く診療することが求められます。病棟診療は基本的に、初期研修医-専攻医-総合診療指導医の屋根瓦式チーム体制をとっています。入院した内科患者は、治療方針について内科全体で共有し、その後もプログラム責任者である見坂先生を中心に教育回診などを通じ、最新の知見をもとにマネージメントのアドバイスをもらいます。

当院は「小児科を守る会」が発足した病院・地域です。医療崩壊経験後、秋田穂東前院長（元神戸大学総合内科教授）の下、教育を主として医療再生し、総合診療プログラム以外でも医師・医療者が増えています。秋田名誉院長は、現在も週に1回、1例1時間の臨床推論教育を行って頂いています。また、地域住民はもちろん、院内の救急科や小児科、内科・外科を含めたすべての診療科が総合診療と医学教育の文化に理解があります。実際に小児科の岡本光宏先生は大好評の「初期研修医・総合診療医のための小児科ファーストタッチ」を著しています。

総合診療関連の市中病院として、学会発表数・論文発表数は全国トップクラスです。2022年6月に行われる第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会では当プログラム関連で15演題を発表しました。数だけでなく、日頃の指導体制から質の担保もされ、第11回大会では当プログラムから大会長候補、第12回大会では若手研究優秀賞（←私ですが）を受賞しています。さらに5年連続で、「内科学会ことはじめ」で優秀演題賞受賞者を輩出しています（2度の受賞者もあり）。また、プログラム責任者の見坂先生を中心にケースレポートの指導・ワークショップ等を行い、実績を残しています。2020年12月末には「オールインワン 経験症例を学会・論文発表するTips」が刊行されました。秋田先生、見坂先生の圧倒的な知識量と熱い教育の熱量による指導のもと、市中病院から世界にエビデンスを発信しています。

働きやすい職場環境への組織改革も当プログラムを中心に活動しています。敷地内に託児所・病児保育所がありますし、男女問わず育児中の方には、最大限の業務の配慮がされ、子育て中でも安心して勤務できます。そういった私も実は5-6月は育児参加のため時短勤務しており、当直も配慮してもらい勤務しています。

当院だけでなく、プログラムに所属し、他施設で研修している専攻医も含めて月に1回Webでポートフォリオの勉強会や少人数での振り返りをしております。前年度のP-FESでも「教育」領域のポートフォリオで2位を受賞し、当プログラムの教育効果が当院以外の様々な地域へ広がっていることが実感できます。

どんどんプログラムメンバーが増えており、様々なセッティングでの診療や教育、学術活動にはもってこいの環境です。プログラムを迷っている方や興味があった方は、指導者研修も含めて是非一度見学にいらしてください！！



注：写真の時だけマスクを外しています。

学会支部や地域の診療所からの滋賀医大の卒前教育への関わり

松井 善典（浅井東診療所／滋賀県支部副支部長／長浜市）

滋賀県支部では昨年「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズを滋賀医大とのタイアップで開催しています。雨森正記先生はじめ中山明子先生や中村琢弥先生、そして宮地純一郎先生と私で担当したシリーズでの放課後勉強会です。家庭医療・総合診療に関心がある学生さんや地域枠で入学した学生さんを対象に多彩なテーマと多様な講師で展開できました。大変好評で有難いことに今年度も継続事業となっています。

また放課後勉強会だけではなく、正規の卒前カリキュラムにも様々な先生が関わっていますので全ては書ききれませんが紙面の許す限り紹介したいと思います。

1年生への「医学概論」では、永源寺診療所の花戸貴司先生が講義をずっと担われており、ここ数年は滋賀医大の卒業生で弓削メディカルクリニックの指導医である大竹要生先生と私もこの「医学概論」を担当しています。1年生へのロールモデリングや家庭医との出会いの機会となっています。また「早期体験実習」にも多くの診療所・施設が関わっています。

また滋賀医大の目玉カリキュラムと言われている「全人的医療体験実習」では、ここ2年はオンラインという形式で1年生を浅井東診療所、2年生をこうせい駅前診療所の佐々木隆史先生、こびらい生協診療所の西澤寛貴先生が担当し、地域に生活しながら医療を受ける患者さんへのwebインタビュー実習をコーディネートしています。またこの2つの診療所は4年生のフィールド実習も提供しており、1週間の滞在で地域包括ケアを学び、学内発表（毎回上位入賞！）までも指導しています。

そして雨森先生と宮地先生と私が4年生への家庭医療学の系統講義の4コマ担当も長く続いていますし、中山先生の診断学の系統講義も続いています。5年生の病院実習の「家庭医療演習」は年間20数回という大変な回数ですが、中村琢弥先生と私が分担担当しています。そして滋賀県各地では5年生の診療所実習や6年生の学外臨床実習で多くの学会の先生方がご指導をしてくださっています。

このように1年生から6年生まで様々なカリキュラムで滋賀県支部の指導医達が関わっています。そして今年からは3年生の「研究室配属」も浅井東診療所と弓削メディカルクリニックの指導医で担うことになりました。本来なら基礎医学系に配属されることが多かったのですが、大学の理解が進んで診療所も配属先となり、また嬉しいことに3名もの学生が応募し

てくれました。将来のアカデミック GP の養成につながる経験につなげるためにも学会大会や地方会の発表まで目指したいと思って意気込んでいます。



特集 2：第 35 回近畿地方会のお知らせ

吉本 清巳 (第 35 回近畿地方会大会長 / 奈良医大総合医療学)

2022 年 11 月 20 日に行われる第 35 回近畿地方会の大会長の吉本清巳です。

「新時代へのパラダイムシフト ～わくわくする地域へ～」をテーマに鋭意準備を進めております。

ホームページを公開いたしました。

日本プライマリ・ケア連合学会 第 35 回近畿地方会

<https://award-con.com/pc35kinki/>

実行委員の専攻医の先生が、素敵なトップページをデザインしてくれました。是非ご覧ください。画像の秘密はホームページの中に記載がありません。テーマがヒントです。



11 月 20 日は現地開催と Live 配信を行う予定です。現地でもご自宅でも参加可能です。

オンデマンド配信期間は 2022 年 10 月 20 日 (木) ～2023 年 1 月 31 日 (火) です。

演題募集期間 2022/7/1～8/17

事前参加登録 2022/9/1～2022/10/19

通常参加登録 2022/10/20～2022/11/20 (オンデマンド視聴登録は 2023/1/24 まで)

となっております。皆さんの多数の演題登録、ご参加をお待ちしております。

特別講演は、ドイツ出身の、法相宗で 1000 年続く僧侶の試験を日本人以外で初めて突破された、法相宗大本山 興福寺 録事 ザイレ暁映様をお願いしています。「仏教や新たなことに挑戦することを通じて、先生のご経験からプライマリ・ケアに携わる職種に教えていただけること」という内容で御話いただく予定です。先日、初めてご面会しましたが、日本語が堪能で、博識で、非常に物腰の柔らかい方です。日本に留学し日本文学を学ばれた後、仏教学を学ばれ一度はアメリカの大学で仏教学を指導された後、日本に戻られ得度されています。僧侶の立場から人々の幸せを考えておられ、プライマリ・ケアに携わる我々と共通する部分も多く、とても勉強になる興味深いお話が聞けました。今から当日が楽しみです。

全体のシンポジウムでは、昨年、新制度での「総合診療専門医」が誕生したことをうけて「総合診療医」をテーマに指導医と専門医を交えてのシンポジウムを予定しています。

教育講演は、奈良医大 医師・患者関係学講座の石井均先生、臨床心理士でアナウンサーの関根友美先生をお願いしています。当日のセッションとしては「多職種カンファレンス」「コミュニティナース」「医薬連携」「研究」をテーマにしたセッションを企画しており、鋭意準備中です。また、充実したオンデマンド限定コンテンツも企画しております。

新企画として、プライマリ・ケアに携わる皆さんから「わくわく」をテーマにしたフォトコンテストも行い、皆さんからの素敵な写真のご応募をお待ちしています。

たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願い致します。

JPCA 近畿ブロック支部 オリエンテーション 2022 のお知らせ

蓮間 英希 (西淀病院/大阪市)

毎年行われている JPCA 近畿ブロック「オリエンテーション」は今年もオンラインで開催します。専攻医、特に新専攻医の先生方に向けて、ポートフォリオとは何か、ということや、どうすれば研修を充実して過ごせるのかなどを、先輩医師のメッセージとともにお伝えしています。なかなか別のプログラムの同学年との繋がりも取りづらい中で、専攻医同士がつながることができることから好評の企画です。内容もブラッシュアップしてお送りする予定です。指導医の先生にも学びになる企画でもあると思うので、是非、積極的な参加を期待しています。

<日時> 2022 年 6 月 26 日 (日) 14 時~16 時頃 *終了後に zoom 交流会を予定

専攻医の皆様へ

研修プログラムの概要について理解を深めて頂くことはもちろんのこと、専攻医がどのように学んで行けば良いのかということについて実例を踏まえての解説や、ポートフォリオからどのような学びを得られるのかというプレゼン、そして専攻医部会という専攻医による様々な情報交換ができる部会の紹介など、盛りだくさんな内容になっています！

【新企画!!!我がプログラムの“ご自慢教育コンテンツ”紹介】

近畿ブロック支部の各プログラムから 1 名が代表して 1 分ずつ発表して頂く時間を設けます。

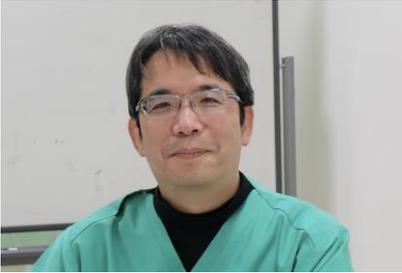
<プログラム予定>

- ・雨森支部長挨拶 (5分)
- ・理事長からのビデオメッセージ (15分) 草場鉄周先生
- ・新・家庭医療専門医制度について (ビデオ) (15分) 横谷省治先生
- ・研修開始にあたって ゴールとサバイバルスキル (20分) 阪本宗大先生
- ・近畿各施設より 1 分間 “ご自慢の教育コンテンツ紹介” (30分)
- ・専攻医部会紹介 (20分) 田中いつみ先生
- ・ポートフォリオって何? 生涯教育として考える (20分) 大竹要生先生
- ・バーチャル医局開設の説明 (5分) 稲岡雄太先生
- ・全体ディスカッション、質疑応答

近畿ブロック支部オリエンテーション実行委員

飯野貴明、一瀬直日、稲岡雄太、田中いつみ、朴大昊、蓮間英希、水谷直也

ご挨拶：理事就任



雨森 正記 (医療法人社団弓削メディカルクリニック・滋賀家庭医療学センター)

この度、全国選出理事に再選させていただきました。これまで近畿ブロック長、生涯学習委員長として活動させていただいておりました。この2年間はCOVID-19のために活動を制限せざるを得ない状態が続き近畿ブロックの活動もウェブ主体で行ってまいりました。これからの2年間は医学生から現役で活動されている先生方までシームレスにつながるように活動を続け、少しでも皆様のお役に立てるように努力させていただく所存ですので何卒よろしくお願いいたします。

ご挨拶：理事就任

鈴木 富雄 (大阪医科薬科大学／高槻市)

この度、日本プライマリ・ケア連合学会の全国選出理事を拝命しました大阪医科薬科大学の鈴木富雄です。昨季も理事に選出いただきましたが、本学会の予防医療・健康増進委員会の委員長として、本委員会のワクチンチームおよび感染対策チームのリーダーである中山久仁子先生を中心に、多くの方々の協力をいただき、新型コロナウイルスのワクチン接種に関してのWebを通じての情報発信など、感染症に対する予防や対策関連の仕事に尽力いたしました。

また、昨年11月には近畿地方会の大会長の任を受け、日本プライマリ・ケア連合学会第34回近畿地方会を開催させていただきました。コロナ禍で一年延期した後、初めてのオンライン開催であり、主催者として戸惑いと不安も大きかったのですが、最終的には799名もの沢山の方々にご参加いただき、アンケート結果からも、多くの方々に満足していただけたようで、ホッとしております。大会の準備の段階から終了期間に至るまで、実行委員会のメンバーのみならず、多方面からのご意見やご支援をいただきました。この場を通じて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今期も皆様方と共に、総合診療・家庭医療に関しての、より良き臨床教育の実践を目指し、引き続き尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



ご挨拶：理事就任



川島 篤志 (市立福知山市民病院 総合内科)

京都北部の市立福知山市民病院 総合内科の川島 篤志です。前期に引き続きブロック理事に選出いただきました。正直に申しあげて、1期目の2年間は予想以上の業務と自身の対応能力の甘さから複数の委員会・プロジェクトでご迷惑をかけてしまいました。選出頂いた皆さまにも申し訳なく思います。(現時点での予定になりますが) 2期目も同じ委員会・プロジェクト(病院総合委員会・高齢者診療委員会・セクシュアルヘルス委員会・近畿ブロックでのプロジェクト)での役割を担うことになるので、同じ轍を踏まないように、学会・学会員のために一緒に頑張ってくれる仲間も募集したいと思っています。特に、前回のニュースレターでも記載しましたが、「近畿で

の総合診療専攻医を増やす」ための「医学生・初期研修医に継続的に情報提供を行う体制づくり」は、地道に進めたいと思っています：仮 HP (<https://primary-care-kinki.jimdosite.com/>)。

専門医制度にまつわる混乱も少し落ち着きそうな感覚をもっています。あとは選んでもらえるように、育てていけるように、それぞれの立場で頑張っていただけるように支援ができるとイイなと思っています。この2年間はコロナ禍で交流が難しかったですが、地域ブロックならではの、歯科・薬剤師や在宅医療関係やベテランの先生方にも興味を持っていただける企画を創っていきたいと思います（これも皆さまのお力をお借りしたいです！）。次の2年、頑張りますので、宜しくお願い致します。

ご挨拶：理事就任



石丸 裕康（関西医大総合診療医学講座）

今回、近畿ブロックより選出いただきました石丸裕康です。三期目になります。学会では病院総合医委員会委員長、医療の質安全委員会、和文誌編集委員会に属し活動しておりました。天理よろづ相談所病院に勤務していましたが、縁あって昨年より、新規開設された関西医大総合診療医学講座に異動しました。大学といっても勤務しているのは199床の地域密着型の小病院です。プライマリ・ケアの現場に近い病院であり、中小規模病院を拠点とした総合診療の展開、人材育成をめざしています。

さて、この数年の医療の最大の 이슈はなんといってもコロナ対策であったと思いますが、プライマリ・ケアの視点からみますと、地域を支えるインフラストラクチャーとしてのプライマリ・ケアの必要性がより顕になったといえるのではないのでしょうか。

地域医療構想・地域包括ケアの議論の中でずっと指摘されていたことがコロナで明確になったと思います。かかりつけ医の制度化が政策面でも喫緊の課題として取り上げられており、学会としてプライマリ・ケアの量的、質的向上にさらに取り組む必要性を実感しています。そのためには、プライマリ・ケアの場で中核となる人材育成が重要であり、キャリアパスの確立や、生涯教育の充実、研究の場の提供など、若い医師が夢を持ってこの領域に踏み出せる環境が大切です。もう一点はプライマリ・ケアを面で展開するネットワークが必要ではないかと考えています。診療面のみならず、研究、人材育成で協力できるネットワークの構築が必要です。こうした課題に、近畿の会員のみなさまとともに取り組んでいきたいと考えております。よろしくお願いたします。

ご挨拶：理事就任

長 哲太郎（ファミリークリニックなごみ／大阪家庭医療・総合診療センター）

このたび、近畿ブロックより再選頂きました、ファミリークリニックなごみの長 哲太郎です。

前期（2020年度、2021年度）は、まさにCOVID-19に翻弄される日々で、大変なご苦労をされて医療活動に従事された方も多いかと思えます。学会も、完全オンラインで学術大会が開催されるなど、感染予防に主眼をおいた活動が中心となり、実際に皆様とお会いして交流する機会が制限されました。とはいえ、オンラインミーティングの技術の発達や、情報発信の在り方は洗練され、遠方であっても「つながり」を維持できる可能性が広がり、工夫次第では、学会の取り組みが、より身近にできる展望があると思えます。

近畿ブロックでは、広報媒体であるニュースレターの編集や、近畿ブロック全体で家庭医療・総合診療専攻医の教育を支援するプロジェクト「Up to The 3rd Power(UT3P)」を主に担当しており、新しい形の「つながり」構築に励ん



でいます。

今期においても、中堅としてフットワーク軽く、現場と学会活動がうまく融合するように尽力していきたくと思います。諸先輩方をはじめ、ブロック支部の皆様にご教授いただくことが、あまたあると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

ご挨拶：監事就任



大島 民旗 (西淀病院／大阪家庭医療・総合診療センター)

このたび監事に選出されました。前任が葛西龍樹先生、私とペアで監事をされるのが伴信太郎先生とのことで、日本の家庭医療と総合診療のレジェンドの方々の役割を私が担うのは分不相応も甚だしく感じています。それでも小病院の病院長を8年間勤め、コロナの真っただ中2022年から診療所長となり、日本のプライマリ・ケアの最前線の現場にいたものとして、本学会の発展に多少でも恩返しとしての寄与ができるのであればこれほど幸せなことはいないかもしれません。私が理事を担っていたのは2012～16年の4年間ですが、当時からは理事会もずいぶん若返り、地域住民の幸福に寄与する質の高い総合診療医・家庭医の育成を飛躍的に進める時期かと思います。

病院と診療所との経験でこの間感じることは、家庭医療学に基づいた総合的な診療が結局は患者さんにとっても幸福になるということです。大阪北部は日本でも屈指の医療過密地域で、周囲には様々な診療科のクリニックが多数存在していますが、複数の診療科にまたがって通院されている患者さんの中には「主治医不在」のため混乱している方もいらっしゃり、改めて家族を含め包括的統合的に患者さんを捕らえられる医師がもっと増えないといけないと感じています。

近畿ブロックの中での役割は変わるものではありませんが、ベテランと若手の混在したこのブロックの良さを生かし、発展の力になればと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

その他

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

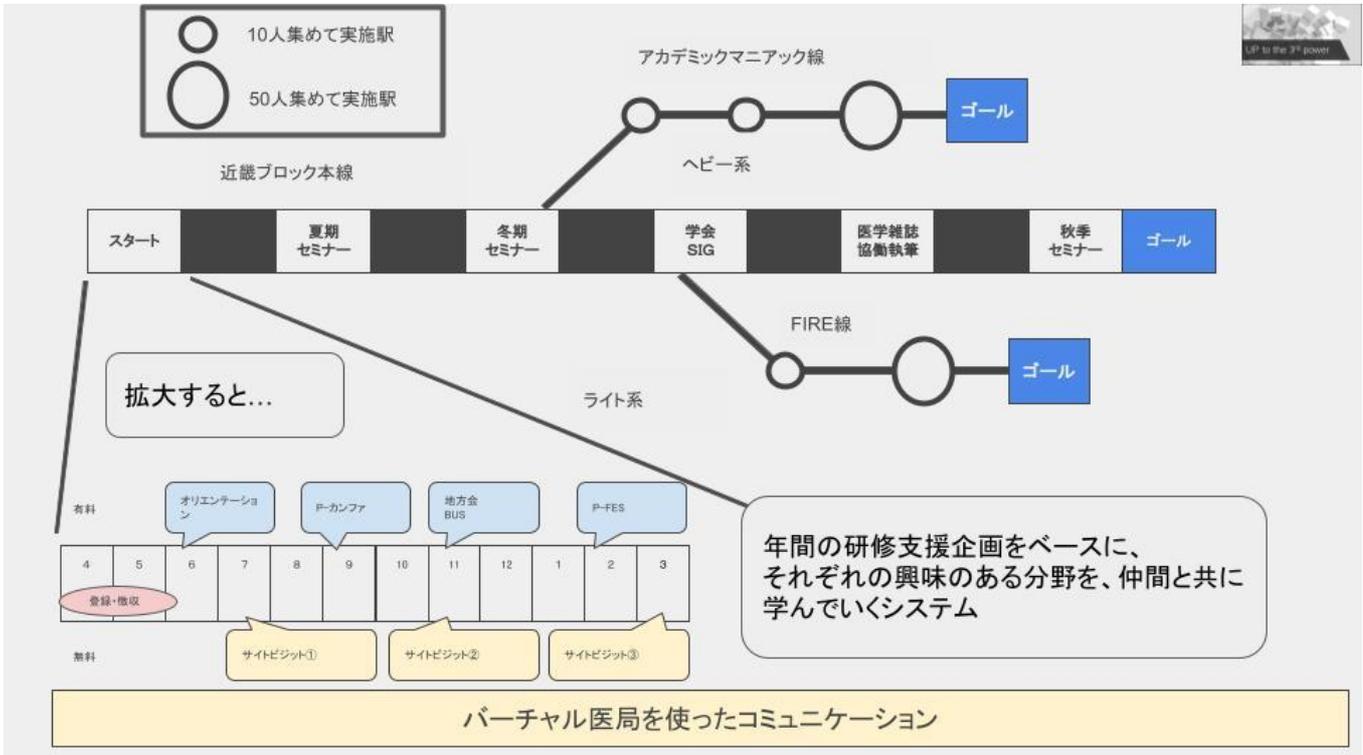
- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山(畔田) 明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生
- # 6 松井善典 先生
- # 7 竹中裕昭 先生
- # 8 三澤美和 先生
- # 9 専門研修をはじめたばかりの3人の専攻医



<https://podcasts.apple.com/gb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/id1583573369>

をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。ぜひ一度お聞きください。

●近畿ブロックの研修ブラッシュアッププロジェクト ～up to the 3rd power～



up to the 3rd power という、専攻医の研修を近畿全体でシステマティックにサポートし、一人ぼっちの専攻医を作らないプロジェクトを始めました。現在、月一回のミーティングを行っています。

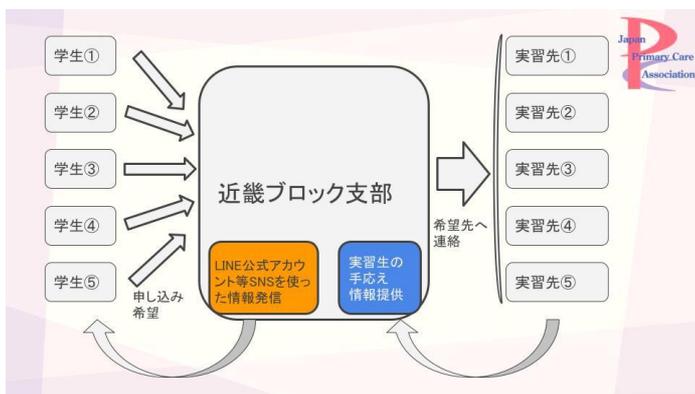
2022年度は、6, 7月頃に登録を行い、年間の専攻医のための教育イベントについて、通年参加できるシステムを考えています。(上図参照)

次回のミーティング日程は、2022年6月28日(火) 21時～です。

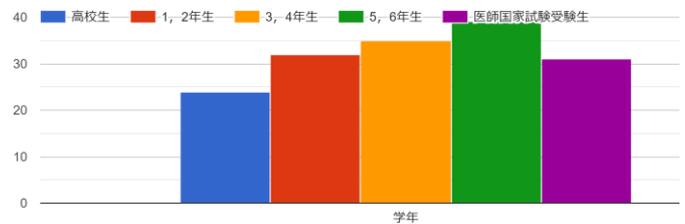
プロジェクトに興味がある、関わりたいという方、ドシドシ連絡ください。

登録先はこちらです。 <https://forms.gle/kiVioQdp5CA86jTN6>

●近畿ブロックで学生実習プロジェクト



(6/14) 受け入れられる学年について (複数回答可能)



(6月18日現在 42施設からお返事を頂いております。)

代議員の皆様の中で、2022年夏以降、低学年も含めて学生実習を引き受けていただける方にお申し出いただき、医科大学内に掲示するための実習先リストを作成できればと考えております。アンケートの回答期限は6月末日となっております。

<https://forms.gle/kQ5FdmW59vNZtipi7>

皆様のご協力をお願いいたします。

ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎 (大福診療所/桜井市)

近畿ブロック ニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2022年夏号は36号にあたります。しかしながら、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動の一部しか取り上げることができていないのではないかと感じているところです。多職種のみなさま含め、是非、編集や執筆にご協力いただけないでしょうか。

ご興味のある方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご連絡下さい

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之